

令和元年6月14日現在

機関番号：34310

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K16969

研究課題名（和文）現代オセアニアにおける地域的画像の流通と集合性の形成をめぐる人類学的研究

研究課題名（英文）Anthropological research on circulation of regional images and establishment of collectivity in contemporary Oceania

研究代表者

渡辺 文（WATANABE, FUMI）

同志社大学・グローバル地域文化学部・助教

研究者番号：30714191

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では地域的画像の継承・創出・流通の分析を通して、オセアニア地域における「集合性」の構築について考察をおこなった。その結果、とりわけ先住民運動と観光戦略からの影響が指摘されたとともに、東南アジア島嶼域とオセアニア地域の連続性の構築、およびオセアニア世界のポリネシア化というふたつの現象が考察された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、欧米に出自をもっていた「芸術」が、その固定的形式を超え、現代オセアニアの文脈でさまざまな画像をつみだす過程を解明することをつうじて、〈集合〉という開かれた地域主義の在り方を提起した点にある。また人類学、オセアニア地域研究、芸術論を基盤とする本研究は、画像のもたらす効果が社会を理解するための要として指摘されるオセアニア世界を理解するために必要な、総合的枠組みを提示する。

研究成果の概要（英文）：This research examines the construction of “collectivity” in Oceania, through the analysis of succession, creation, and circulation of Oceanic regional images. As a result, it has been pointed out that especially the indigenous movements and tourism strategies had huge influence on those images. Moreover, the continuity in image production between Southeast Asian Islands region and Oceania has been confirmed, as well as Polynesianisation of Oceania in artistic context has been observed and analysed.

研究分野：人類学

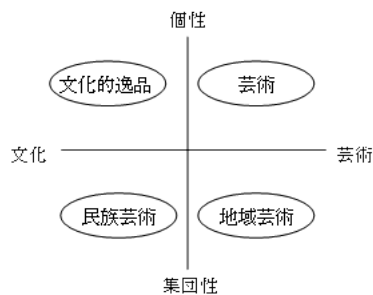
キーワード：人類学 オセアニア研究 芸術 集合性

## 1. 研究開始当初の背景

国旗やトレードマークに代表されるように、集団を象徴する図像の創出は、集団形成の古典的手法のひとつである。オセアニア島嶼域ではこれまで、エキゾチックな図像が植民地主義のまなざしのなかで発見されたのち、独立後の近代国家形成過程において、国家/地域統合を象徴する図像が創出され、あるいは観光資源として開発されてきた。本研究では、上記・・・を視野に入れながらも、とりわけ「レッド・ウェーブ・アート」という地域芸術の誕生と足並みをそろえるように出現している図像群を分析対象とし、それらが固定的な集団形成装置として機能するにとどまらず、図像の継承・創出・流過程をつうじて、あらたに<集合性>という在り方を開示していくメカニズムを実証的に解明する。

### (1) 個と集団をめぐるオセアニア的図像の問題

オセアニア島嶼域に由来するさまざまな図像は、西洋近代芸術の枠組みのなかで発見されたうえで、集団的な民族芸術や地域芸術として強調されるか、逆に西洋芸術システムに従属するまがい物とみなされてきた。背景には、個人/集団、文化/芸術という二項対立に立脚した、図像の分類作業が指摘できる(下図)。



### (2) 集合性 への着目

1990年代より、オセアニア島嶼域に出自をもつ者が中心となって、レッド・ウェーブ・アートとよばれる汎オセアニア的な絵画芸術を発展させてきた。申請者は中心地であるフィジーにて合計約26ヶ月(2004年~2014年)のフィールドワークをおこなった結果、レッド・ウェーブの成功は、まず、地域芸術を確立しようとする既存の制度や言説(真正性の確保、マーケット戦略、政治的地域主義の創出)によって裏づけられていることを明らかにした。他方でアーティストたちの制作実践からは、みずからの名に立脚した「自分の作品」を制作することをめざし、集団的な営為として位置づけられることを拒否する姿が明らかになった。このような状況を集団と個という二項の対立としてとらえる上述の袋小路を突破すべく、申請者はあらたに「集合性」という概念を導入し、集合的絵画スタイルの生成過程を分析したとともに、制作にまつわる行為の連関から生じる集合性について考察をおこなってきた。

## 2. 研究の目的

以上のような「集合性」に立脚するレッド・ウェーブは成熟期を迎えたいま、広くオセアニア島嶼域へ広がり、さまざまな地域的図像をうみだす源泉として機能している。本研究では、レッド・ウェーブの本拠地であるフィジーのみならず、レッド・ウェーブの継承・流通が盛んな他のオセアニア島嶼域、とりわけ市場における影響の大きい地域の主要都市部におけるデザイン市場、伝統財領域、観光市場、政治モチーフを対象に、各地で流通する図像の網羅的収集・分析をおこなう。そして図像の継承・創出・流通の経路図や社会的勢力図を作成し、上述の絵画スタイルとの連続を検証する。このさい、制作/製作現場や販売の現場への参与観察を通して、図像の周囲で構築されていく「集合性」について考察する。

## 3. 研究の方法

現地調査(フィジー、グアム、ハワイ、台湾、インドネシア、韓国)、図像分析、文献研究を主要な方法とし、オセアニア地域的図像の継承・創出経緯や流過程と、その社会的効果を明らかにする。文献研究はすべての年度で継続させながら、収集データの分析と並行させて分析を進めていく。

## 4. 研究成果

(1) まず文献研究および図像分析においては、人類学的芸術論およびオセアニア地域研究を中心に文献・資料収集と分析を進めた。28年度はとりわけ物質文化研究や考古学を横断しながら論じられる「スタイル」の議論や、ポリネシア地域の入れ墨モチーフが現代的文脈においてオセアニア島嶼域へと拡散していった経緯についての考察を深

めた。29年度はとりわけ図像表象が政治利用された近代史にかんして考察を深めたほか、東南アジア（島嶼）地域とオセアニア地域との社会・文化的連続性を支える歴史的背景の研究に、先史時代にまで遡りながら着手した。30年度はこの連続性を支える近・現代的文脈について、先住民運動および観光戦略という点を中心に分析したほか、人類学的芸術論における集合性の議論についての総合的考察をおこなった。

- (2)次に海外現地調査および図像分析について述べる。28年度は米国準州グアム、米国ハワイ州、台湾、韓国にて海外調査をおこなった。グアムでは、4年に一度開催される大型の地域的祭典「第12回太平洋芸術祭」に参加し、参加者やオーガナイザーへのインタビュー調査および参与観察をおこなったほか、約10か月後に同地を再訪し、開催後の動向調査をおこなった。汎オセアニア的図像の巨大市場をもつハワイ州では、日用品や衣料品に施される商品の図像収集・分析をおこなった。太平洋芸術祭への正式参加をめざす台湾では、原住民（おもにアミ族）にまつわる図像収集・分析やオセアニア地域との連続性を主張する原住民の言説にかんする資料収集をおこなった。フィジーへの直行便を有する韓国・ソウルでは、オセアニア地域への渡航を促す観光市場の戦略にかんする資料収集をおこなった。29年度はフィジー、韓国、米国準州グアムにて海外調査をおこなった。レッド・ウェーブ・アートの本拠地であるフィジーでは、首都スヴァ、ロマイヴィチ諸島（おもにレレウヴィア島）、タヴェウニ島などを中心に、適宜アーティストに同行しながら、制作・販売等の現場へ参与観察をおこなったほか、インタビュー調査、図像収集・分析をおこなった。韓国・ソウルでは、オセアニア地域への渡航を促す観光市場の図像的戦略にかんする資料収集を、前年度に引き続きおこなった。グアムでは、オセアニア的集合表象にかんする図像収集・分析を継続したほか、チャモロ系アーティストへのインタビュー調査および参与観察調査を実施した。30年度はインドネシア、フィジー、米国ハワイ州、米国準州グアムにて海外調査をおこなった。インドネシアのカリマンタン島およびジャワ島では、先住民の復権運動に用いられる図像表象について、インドネシア・スラウェシ島では、図像表象における動植物の利用について参与観察、インタビュー調査、および図像収集・分析をおこなった。フィジーでは、主に首都スヴァにてレッド・ウェーブ・アートの調査および国立アートギャラリーの建設計画に関する調査をおこなった。米国ハワイ州および米国準州グアムでは、オセアニア的集合表象にかんする図像収集・分析を継続したほか、観光市場における図像表象にかんしてのインタビュー調査を行った。

これらを受けて、図像表象においては台湾および東南アジア島嶼域とオセアニア地域のあいだである種の集合性が構築されていることが指摘でき、それは先住民運動と観光文化からの影響を強く受けていることが考察された。また広く社会・文化的文脈においてオセアニア地域全体の「ポリネシア化」が進行しており、それは図像表象およびパフォーマンスアートにおいて顕著であることが考察された。とりわけ に関しては重要な論点であり、今後の研究テーマとして発展可能である。

## 5. 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕(計 4件)

佐藤知久、中谷和人、渡辺文、「人類学の基礎知識」『美術手帖』vol.70, no.1067: 60-69 (監修と分担執筆) 2018

渡辺文、「書評 松村恵里著『カラムカリ・アーティスト インド手描き染色布をめぐる語り』」『コンタクト・ゾーン』9: 465-471、2017

渡辺文、「海がつなく世界 オセアニア」『同志社時報』143:72-77、2017

渡辺文、「書評 河合利光著『神が創った楽園 オセアニア / 観光地の経験と文化』」『文化人類学』80(4): 660-663、2016

### 〔学会発表〕(計 1件)

渡辺文、「表象がうみだす土産物から、土産物が導く行為へ」、『表象のポリティクス グローバル世界における先住民 / 少数者を焦点に』、国立民族学博物館共同研究、大阪：国立民族学博物館、2016

### 〔図書〕(計 3件)

渡辺文、「芸術を知るために舟を漕ぐ」、神本圭史編『ラウンド・アバウト フィールドワークという交差点』集広舎、pp.141-152、2019

渡辺文、「モノと芸術 人はなぜ美しさを感じるのか？」松村圭一郎・中川理・石井美保編『文化人類学の思考法』世界思想社、pp.72-83、2019

渡辺文、「コラム 岡本太郎 境界線を吹き飛ばす芸術」松村圭一郎・中川理・石井美保編『文化人類学の思考法』世界思想社、p.85、2019

〔産業財産権〕  
出願状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織  
該当しない。

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：  
ローマ字氏名：  
所属研究機関名：  
部局名：  
職名：  
研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：  
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。